

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 konno		
事業所名	グループホーム たんぽぽ ユニット名 A棟		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73-3		
自己評価作成日	平成23年 5月 6日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所時からの入居者さんが5人おり、すっかり我が家のように生活しています。食の進まない利用者にはスタッフの様子を見ながら一緒に声を掛けたり、認知症状の進んだ方には出来るお世話をしてくれます。一人一人のペースを大事にしながら今出来ることを大切に、ゆったりした一つの家族になっています。地域のボランティアさんとの交流、又スタッフの成人式や出産をホームの皆でお祝いする等ノンビリとした生活に少し刺激を受けながら、楽しみの時間も超越しています。食堂の広い窓から見える四季折々の風景をスタッフと話題にしながら心豊かに暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の9月、A棟に隣接してB棟が完成し2ユニットになったことで、入居者はお互いの棟を行き来し交流をしている。ドライブや外食等の外出もA・B棟一緒に行動するので賑やかで楽しくなった。「いまできることをたいせつに」「居心地のいい雰囲気作り」の理念に添ったケアを心がけている。ホームは近代的な外観と共に、基礎暖工法に依り全館が柔らかな暖かさで包まれ、自動換気システムによる空気清浄も保たれ、入居者は居心地良く過ごしている。受け入れた体験学習の中学生達とその後の交流は今も続いている。絵手紙のボランティアの指導により、全員の方が季節感のあるものを創作し居間に飾られていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム たんぽぽ)「ユニット名 A棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のキーワード「家庭的・尊厳・能力・楽しみ・地域とのつながり」を根底にしながら月1回の全体ミーティング時理念の確認をし利用者の状況によっては変更する。	ユニット毎の介護理念を掲げている。今できることを大切にしたい思いがあり、車椅子の入居者も一緒に外出したり、開設間もないユニットでは居心地の良い環境づくりを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として可能な地域活動に参加している。 ホームで行う季節の行事には地域の皆さんにも参加していただき交流に努めている。	ホームの行事である夏祭り、芋煮会、敬老会等には地域、芸能ボランティアが参加している。また、畑や花壇作り、木製の表札作製や中学生の体験学習受け入れ、地域の朝市、健康祭りに行き日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れており認知症の方との関わりを学んでいただいている。 交流で来て下さるボランティアさんに職員が受けた認知症研修のお話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月第1木曜日に開催している。 町・地区長、民生委員、家族会の会長・副会長、入所者代表、ボランティアさん等の参加を得て時事的議題も取り上げ広く意見交換を行っている。	会議は2ヶ月に一度定期的に地域包括支援センターも参加して開催している。災害時に地域によって炊き出しや安否確認、自主防災会等の対応がまちまちだった。備蓄の充実、自家発電の必要性等の反省や対策強化が話し合われている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の研修会等に参加するようにしている。 困難事例では町の担当者に相談し助言を得ながら対応している。	「介護業務のための腰痛予防研修会」等の町主催の研修会に参加している。認知症なのかあるいは精神的な症状なのかの判断が困難な入居者の相談をし、助言を得ながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛ける事なく見守りで自由に外に出る事ができる。 テラスから庭に出て日光浴をする入居者もいる。	外部研修で学んだことを伝達研修し、職員もその弊害について理解をしている。家族の了解を得て夜間のみサイドガードを使用、手薄の時間帯に30分ほどの施錠等についても最善策に配慮してのことである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、学んだ事を伝達研修で職員全員で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族又は親族が居り、今の所必要とする方は居ないが、権利擁護についての研修には参加し制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時点で説明を行い契約書をかわしている。改定がある場合は家族会開催時に説明し了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出た意見・家族会で出た要望等は、すぐミーティング時に検討し実行に移すようにしている。	来訪時の意見や家族との行き違いが生じたような場合、ホームの対応に問題がなかったか即検討している。家族会は参加率が良く、遠方から参加する方もいる。通院時の家族同行についての話し合い等も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや特に全体ミーティングでは、利用者さんに関してだけでなく、広く皆の意見を出してもらっている。	サービスの向上に向けた職員の意識は高く、運営者は出された意見を反映させている。車椅子使用している入居者の足のむくみに、デイサービスの協力を得てマッサージを施したり、食欲が思わしくない方への栄養補助食品提供等もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員・パートの別、又個々人の体調・家庭環境を考慮し勤務の調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の現状に合った研修や、講演会への参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会に参加し、交流・連携を図る事で更なる認知症への理解を深める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族からの聞き取りで生活歴や心身状況を把握し、又御本人との面談を大切にしながら安心して生活出来るように援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自由に話していただけるような雰囲気作りと家族関係にも配慮し、各々の気持ちを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基にスタッフで検討した上で援助計画を作成し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてお話に耳を傾けたり、知恵を頂く事もある。 又日々の生活に共に笑い涙したりと家族の様な関係でもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会は御家族にも声を掛けホームでの様子をみていただくようにし、又出来事等も率直に伝え、御本人を理解していただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院の折、自宅に寄ったり自宅周辺を回り馴染みの環境に触れる機会を持つようにしている。 御家族、知人の方にも足を運んでいただくよう声掛けしている。	馴染みの美容院やスーパーでの買い物、友人の来訪、絵手紙での交流、電話を掛けたりと関係継続の支援をしている。携帯電話で話している方もいる。震災後の自宅の様子が気になる方には、通院時に立ち寄った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人の性格・心身状態を把握し、お互いが助け合えるように座席を決めたり声掛けに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆んどの方が終末期迄ホームで過越され、サービスを終了している為、その後の支援という事は殆んど無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話をする機会を多く持ち思いを受け止めるようにしている。ミーティングで状況を確信し対応している。	入居以前の状況も参考にしながら、ミーティングで話し合い共有している。漬物作り、跡の皮むき、洗濯物たたみ、散歩等本人の意向に沿った支援をしている。その日の状況を見てそっと見守ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族だけでなく、入所前の居宅のケアマネージャーさんとも連携を図り状況の把握に努めている。 スタッフ全員が情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、申し送りをミーティングで確認し各人の状態を把握した上で必要時は対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、利用者の状況を確認し御本人・御家族の意見・思いも汲み取り介護計画を作成している。	家族の意見、業務日誌、生活の様子、申し送りのノートと看護師のアドバイス等で現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月に一度の見直しをしている。一人ひとりの様子を月便りで報告し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・生活の様子・申し送りノートへの各々記入事項を徹底し、ミーティング時情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を密にする事で、利用者の思いを更に受け止めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんや、中学生との交流等により適度な刺激を受けながら、日々の暮らしが豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時、利用者・御家族の希望で決めている。 往診体制の利用者は、各々前日に状況を伝えている。	入居時に話し合い、それぞれ希望に沿った受診をしている。本人の状態を把握して頂いたり、職員の限られた人員の中に於いては、通院には家族の都合がつかない限り、協力していただくことも必要と思われる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況は、ミーティングや申し送りノートで看護師と共有しており、必要時は家族への連絡の上通院している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、各々サマリーにより適切な支援が出来るようにしている。 又入退院時は、看護師かケアマネージャーが同行し、担当医と面談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族・担当医と状況に応じ話し合いの場を設けている。 職員は看取りについての話し合いも行いホームとして対応できるケアについて説明しお互いに協力している。	殆んどの方が終末期までホームで過ごされたいというように、これまで家族の協力を得ながら6名の看取りを経験している。段階的な話し合いも行われているが、方針の統一が示された指針と同意書等の不備がみられる。	家族、担当医、職員、看護師、関係者との話し合いは行われている。それらの内容に基づいた対応の方針を成文化し、家族に示してより安心感が得られるようにして頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導の下、年に2回応急処置の勉強会をしている。 月1回順次救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災、地震を想定した避難訓練を実施している。	年2回(夜間想定含む)地域住民の協力を得て実施している。震災時に、地域の人を法人全体で8人受け入れた実績もある。今後は町の地域資源として、ホームを災害ハザードマップに掲載の働きかけを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの希望される呼び方で声を掛けている。状況や利用者さんの気持ちに配慮した声掛けをしている。居室に入る際は声を掛けてから入室している。	「指示」ではなく「支持」を心がけ、優しい笑顔で簡潔に伝える工夫と、誇りやプライバシーに配慮したケアをしている。職員には「親しさ」と「馴れ合い」が混同しない気付きも求められる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話をしてほしい、買い物に行きたい等の希望をいつも伝えられる関係作りに努めている。言動に注意し思いが実現出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆が同じようにはなく、各利用者のペースや体調を考慮し、思ように過越してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を決めかねている利用者には、一緒に選ぶお手伝いをしている。外出の際は帽子・バック等でおしゃれの楽しみを感じてもらおう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	青菜の選別やへた取り・下膳・食器拭きを一緒に行っている。各人に合った調理形態で自分で食べる楽しみを感じてもらおう。	口腔体操をしてから食事の準備を協働し、季節感のあるメニューを提供している。お喋りをしながら楽しい食時風景となっていた。半年に一度位、管理栄養士や保健師のチェックをお願いしたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調によってはメニュー・形態・量を変更したり、排泄状況から水分量の検討もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者毎に応じた口腔ケアを行っている。夕食後義歯の方は薬剤洗浄管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。夜間は居室にポータブルトイレを置く事で一人で排泄できるようにしている。	本人の希望でトイレにて二人介助で支援したり、状況によってポータブルトイレを使用している。被害妄想からくる不潔行為が改善された方がいる。排泄パターンを活用し、更に自立に向けた支援も必要である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	温野菜で食べ易く又きのこ類・煮物等を多くしている。 音楽に合わせたリズム体操やホール内歩行も日課となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢者の為ほぼ1日おきの入浴を午後から行っている。 利用者の状況によりシャワー浴・足浴・清拭を行う事もある。	午前中や夕方の入浴希望があれば可能だが、午後の時間帯が多い。友達同士での入浴を希望している入居者もいて一人ひとりに添った支援をしている。拒否する方には「お風呂」と言わず、誘導に工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ畳を利用している方もいる。 夜間眠れない方には無理強いせず、夜勤の職員と一緒に付き添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾患と薬について個人ファイルにて情報を共有している。薬の変更があれば申し送りで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんの協力を得て絵手紙・歌を楽しんでいる。 得意の針仕事で縫い物をしてくださる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や畑には自由に行き来している。 外食ツアーでは好みの物を選んでいる。 又遠方の家族が来所してくれる際は買い物・温泉に行く等本人の思いを大切にしている。	日常、特別の外出支援(季節のドライブ等)は適切に行われている。外出は季節を感じたり気分転換になり、五感の刺激によって生き活きと過ごせる源でもあるので大切にしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいとして施設で管理し、買い物の希望があれば一緒に行き、見守りの下買い物していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙を使い家族や知人にお便りを出している。携帯電話で自由に家族とやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オール電化で必要に応じ空気清浄機・加湿器を利用し環境に配慮している。 四季折々に合わせ、ホーム内でも家庭と同じように、季節を感じ取れるようにしている。	ゆったりとしたスペースの居間に、壁掛けテレビやソファが配置され、天窓からの柔らかい明りが差し込み入居者は思い思いに過ごしている。笑顔の写真や体験学習で来訪した中学生からのお礼状が張られ、時計、暦、季節の花が四季を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースで足を伸ばしたり、ソファに座ったり腰をおろしたりしている。 又心身状態に合わせた席替えを行い、居心地良く過越せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの気に入った物を置いている方、又物が有る事で混乱する方は置かずに、何事も一人一人の状態に対応している。	手づくりで木製の表札が各々掛けられている。力作の絵手紙や誕生会の寄せ書き、外出時の写真が飾られ、馴染みの茶筆筒や仏壇が置かれたり、その人らしい居室になっている。温湿度計で快適さを管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、風呂には分かるように名前を貼り一人で行けるようにしている。 移動スペースには物を置かず転倒防止に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100527		
法人名	有限会社 konno		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	B棟
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73-3		
自己評価作成日	平成23年 5月 6日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

B棟は昨年の9月に開所し、入退所者の移動が何度かあり最近やっとな落ち着いてきたところ。ベテランスタッフと若いスタッフがそれぞれの持ち味を生かしながらチームとして協力し入居者さんを支えています。皆さんが集う食堂では馴染みの音楽が聞こえると歌を口ずさむ、踊りだすといった元気が良く明るい棟です。入居者さんに「居心地の良い場所」と感じてもらえるように一人一人の気持ちを大切にしています。又スタッフも「居心地の良い環境」で働けるように率直に意見を出し合いチーム作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の9月、A棟に隣接してB棟が完成し2ユニットになったことで、入居者はお互いの棟を行き来し交流をしている。ドライブや外食等の外出もA・B棟一緒に行動するので賑やかで楽しくなった。「いまできることをたいせつに」「居心地のいい雰囲気作り」の理念に添ったケアを心がけている。ホームは近代的な外観と共に、基礎暖工法に依り全館が柔らかな暖かさで包まれ、自動換気システムによる空気清浄も保たれ、入居者は居心地良く過ごしている。受け入れた体験学習の中学生達とのその後の交流は今も続いている。絵手紙のボランティアの指導により、全員の方が季節感のあるものを創作し居間に飾られていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム たんぽぽ)「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年9月の開所にともない5つの理念のキーワードをもとにスタッフ全員で「居心地のいい雰囲気作りを心掛けます。」という理念を考えました。	ユニット毎の介護理念を掲げている。今できることを大切にしたい思いがあり、車椅子の入居者も一緒に外出したり、開設間もないユニットでは居心地の良い環境づくりを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として可能な地域活動に参加している。 ホームで行う季節の行事には地域の皆さんにも参加していただき交流に努めている。	ホームの行事である夏祭り、芋煮会、敬老会等には地域、芸能ボランティアが参加している。また、畑や花壇作り、木製の表札作製や中学生の体験学習受け入れ、地域の朝市、健康祭りに行き日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れており認知症の方との関わりを学んでいただいている。 交流で来て下さるボランティアさんに職員が受けた認知症研修のお話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月第1木曜日に開催している。 町・地区長、民生委員、家族会の会長・副会長、入所者代表、ボランティアさん等の参加を得て時事的議題も取り上げ広く意見交換を行っている。	会議は2ヶ月に一度定期的に地域包括支援センターも参加して開催している。災害時に地域によって炊き出しや安否確認、自主防災会等の対応がまちまちだった。備蓄の充実、自家発電の必要性等の反省や対策強化が話し合われている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修会等に参加するようにしている。困難事例では町の担当者に相談し助言を得ながら対応している。	「介護業務のための腰痛予防研修会」等の町主催の研修会に参加している。認知症なのかあるいは精神的な症状なのかの判断が困難な入居者の相談をし、助言を得ながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏状態になり外に出てしまう利用者がある。車通りの多いバイパスが近いため入浴時の手薄になる時間帯のみ玄関に施錠をする。	外部研修で学んだことを伝達研修し、職員もその弊害について理解をしている。家族の了解を得て夜間のみサイドガードを使用、手薄の時間帯に30分ほどの施錠等についても最善策に配慮してのことである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、学んだ事を伝達研修で職員全員で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族又は親族が居り、今の所必要とする方は居ないが、権利擁護についての研修には参加し制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時点で説明を行い契約書をかわしている。改定がある場合は家族会開催時に説明し了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出た意見・家族会で出た要望等は、すぐミーティング時に検討し実行に移すようにしている。	来訪時の意見や家族との行き違いが生じたような場合、ホームの対応に問題がなかったか即検討している。家族会は参加率が良く、遠方から参加する方もいる。通院時の家族同行についての話し合い等も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや特に全体ミーティングでは、利用者さんに関してだけでなく、広く皆の意見を出してもらっている。	サービスの向上に向けた職員の意識は高く、運営者は出された意見を反映させている。車椅子使用している入居者の足のむくみに、デイサービスの協力を得てマッサージを施したり、食欲が思わしくない方への栄養補助食品提供等もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員・パートの別、又個々人の体調・家庭環境を考慮し勤務の調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の現状に合った研修や、講演会への参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の勉強会に参加し、交流・連携を図る事で更なる認知症への理解を深める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族からの聞き取りで生活歴や心身状況を把握し、又御本人との面談を大切にしながら安心して生活出来るように援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自由に話していただけるような雰囲気作りと家族関係にも配慮し、各々の気持ちを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基にスタッフで検討した上で援助計画を作成し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや掃除を手伝ってもらったりしている。又食事の時には同じテーブルで一緒に食事を摂っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や夏祭り等行事には、御家族にも声をかけ様子を見ながら同じ時間を共有していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院の折、自宅に寄ったり自宅周辺を回り馴染みの環境に触れる機会を持つようにしている。御家族、知人の方にも足を運んでいただくよう声掛けしている。	馴染みの美容院やスーパーでの買い物、友人の来訪、絵手紙での交流、電話を掛けたりと関係継続の支援をしている。携帯電話で話している方もいる。震災後の自宅の様子が気になる方には、通院時に立ち寄った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日全員で歌を唄ったり体操をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前A棟に入居していた方が再入所している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話をする機会を多く持ち思いを受け止めるようにしている。ミーティングで状況を確認し対応している。	入居以前の状況も参考にしながら、ミーティングで話し合い共有している。漬物作り、蓆の皮むき、洗濯物たたみ、散歩等本人の意向に沿った支援をしている。その日の状況を見てそっと見守ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族だけでなく、入所前の居宅のケアマネージャーさんとも連携を図り状況の把握に努めている。 スタッフ全員が情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、申し送りをミーティングで確認し各人の状態を把握した上で必要時は対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、利用者の状況を確認し御本人・御家族の意見・思いも汲み取り介護計画を作成している。	家族の意見、業務日誌、生活の様子、申し送りのノートと看護師のアドバイス等で現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月に一度の見直しをしている。一人ひとりの様子を月便りで報告し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・生活の様子・申し送りノートへの各々記入事項を徹底し、ミーティング時情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を密にする事で、利用者の思いを更に受け止めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんや、中学生との交流等により適度な刺激を受けながら、日々の暮らしが豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時、利用者・御家族の希望で決めている。 往診体制の利用者は、各々前日に状況を伝えている。	入居時に話し合い、それぞれ希望に沿った受診をしている。本人の状態を把握して頂いたり、職員の限られた人員の中に於いては、通院には家族の都合がつかない限り、協力していただくことも必要と思われる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ミーティングや申し送りノートを利用し看護師に情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、各々サマリーにより適切な支援が出来るようにしている。 又入退院時は、看護師かケアマネージャーが同行し、担当医と面談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族・担当医と状況に応じ話し合いの場を設けている。 職員は看取りについての話し合いも行いホームとして対応できるケアについて説明しお互いに協力している。	殆んどの方が終末期までホームで過ごされているというように、これまで家族の協力を得ながら6名の看取りを経験している。段階的な話し合いも行われているが、方針の統一が示された指針と同意書等の不備がみられる。	家族、担当医、職員、看護師、関係者との話し合いは行われている。それらの内容に基づいた対応の方針を成文化し、家族に示してより安心感が得られるようにして頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導の下、年に2回応急処置の勉強会をしている。 月1回順次救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災、地震を想定した避難訓練を実施している。	年2回(夜間想定含む)地域住民の協力を得て実施している。震災時に、地域の人を法人全体で8人受け入れた実績もある。今後は町の地域資源として、ホームを災害ハザードマップに掲載の働きかけを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの希望される呼び方で声を掛けている。状況や利用者さんの気持ちに配慮した声掛けをしている。居室に入る際は声を掛けてから入室している。	「指示」ではなく「支持」を心がけ、優しい笑顔で簡潔に伝える工夫と、誇りやプライバシーに配慮したケアをしている。職員には「親しさ」と「馴れ合い」が混同しない気付きも求められる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話をしてほしい、買い物に行きたい等の希望をいつも伝えられる関係作りに努めている。言動に注意し思いが実現出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者のペースや体調を考慮し、思うように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さまと一緒に服選びをする。外出の際は帽子・バック等でおしゃれの楽しみを感じてもらおう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	青菜の選別やへた取り・下膳・食器拭きを一緒に行っている。各人に合った調理形態で自分で食べる楽しみを感じてもらおう。	口腔体操をしてから食事の準備を協働し、季節感のあるメニューを提供している。お喋りをしながら楽しい食時風景となっていた。半年に一度位、管理栄養士や保健師のチェックをお願いしたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調によってはメニュー・形態・量を変更したり、排泄状況から水分量の検討もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者毎に応じた口腔ケアを行っている。夕食後義歯の方は薬剤洗浄管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。夜間は居室にポータブルトイレを置く事で一人で排泄できるようにしている。	本人の希望でトイレにて二人介助で支援したり、状況によってポータブルトイレを使用している。被害妄想からくる不潔行為が改善された方がいる。排泄パターンを活用し、更に自立に向けた支援も必要である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	温野菜で食べ易く又きのこ類・煮物等を多くしている。 音楽に合わせたリズム体操や歌を唄う事が日課となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢者の為ほぼ1日おきの入浴を行っている。 早めに就寝する方が多いので午後に入浴する事が多いです。 利用者の状況によりシャワー浴・清拭を行っている。	午前中や夕方の入浴希望があれば可能だが、午後の時間帯が多い。友達同士での入浴を希望している入居者もいて一人ひとりに添った支援をしている。拒否する方には「お風呂」と言わず、誘導に工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ畳を利用している方もいる。 馴染みの布団を利用して頂き安心してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾患と薬について個人ファイルにて情報を共有している。薬の変更があれば申し送りで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんの協力を得て絵手紙・歌を楽しんでいる。 ぬり絵が趣味で毎日楽しんでいる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や畑には自由に行き来している。 外食ツアーでは好みの物を選んでいる。 又御家族と食事に行ったり、親族の法要に出掛けられたり本人の思いを大切にしている。	日常、特別の外出支援(季節のドライブ等)は適切に行われている。外出は季節を感じたり気分転換になり、五感の刺激によって生き生きと過ごせる源でもあるので大切にしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度お金の管理ができる方は小銭程度所持して頂き、そうでない方は管理者が預かり使う時に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機(子機)を渡し居室にて会話を楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オール電化で必要に応じ空気清浄機等を利用し環境に配慮している。 四季折々に合わせ、ホーム内でも家庭と同じように、季節を感じ取れるようにしている。	ゆったりとしたスペースの居間に、壁掛けテレビやソファが配置され、天窓からの柔らかい明りが差し込み入居者は思い思いに過ごしている。笑顔の写真や体験学習で来訪した中学生からのお礼状が張られ、時計、暦、季節の花が四季を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き外を眺めながら談話を楽しめるようにしている。 又心身状態に合わせて席替えを行い居心地よく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置いている方、又物が有る事で混乱する方は置かずにいる方。 その方に合わせて対応している。	手づくりで木製の表札が各々掛けられている。力作の絵手紙や誕生会の寄せ書き、外出時の写真が飾られ、馴染みの茶筆筒や仏壇が置かれたり、その人らしい居室になっている。温湿度計で快適さを管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、風呂には分かるように名前を貼り一人で行けるようにしている。 移動スペースには物を置かず転倒防止に努めている。		